

農村計画の皆さまへ

07年5月19日に委員長便りを発信してからずいぶん日が経ちました。この間、九州大会と第1回本委員会＋協議会・PD＋農村計画懇親会がありました。07年12月8日には第2回本委員会も開かれました。

先立つ07年7月に地井先生追悼会が開かれました。また、青木先生大賞受賞の記念祝賀会が大会にあわせて企画されたのですが、残念ながら他界され、追悼会に代わりました。兩大先生を失うことは、まことに残念なことです。心よりご冥福をお祈りいたします。

一方、委員長交代期の引き継ぎをスムーズにしたいと委員長選挙を早めをお願いした結果、次期委員長に三橋先生が選出されました。次年度の中国大会・研究集会をになつていただくことから、12月8日の本委員会から協議会企画などに参加していただきました。

学術推進委員会は07年6月、10月、12月に開かれ、次年度大会での建築デザイン発表会や若手奨励研究、改組などが話し合われています。

時機を失した案件もありますので、要点をとりまとめ、ご紹介します。

目次

08年度設置特別研究委員会	1
08年度技術部門設計競技課題	2
学術推進委員会の改組	2
07年度九州大会の概要	3
08年の中国大会／広島大学 08年9月18日－20日	3
建築デザイン発表会	4
08年度委員会活動計画案・予算原案の提出依頼	5
国際交流振興基金の援助申請	5
08年度若手奨励特別研究委員会設置提案の募集	5
08年度調査研究委員会予算配分	5
推薦依頼・委員推薦	5
農村計画研究の新しい動きIV	6
小委員会活動成果報告＋本委員会での活動成果報告	6
スケジュール	6

08年度設置特別研究委員会

07年6月の学術推進委員会で、表題の募集要領について議論され、従来通りの要領で募集することになった。締め切りは11月15日。

農村計画委員会が母体委員会になった近年の特別研究は、農山漁村集落における自然災害復旧支援計画（委員長：伊藤庸一）、木造廃校舎を含む学校施設の利活用（委員長：岡田知子）、いずれも設置期間05.4～07.3がある。農村を取り巻く厳しい社会環境を克服するテーマが期待されるが、今年度は農村計画委員会を母体とする応募はなかった。

07年12月の学術推進委員会に、特別研究選考結果が報告された。08年度は7テーマの提案があり、選考委員会での審査により下記3テーマが選考され、承認された。いずれも設置は2年間である。

- ・CO2削減による地球環境の保全に関連し、木質バイオマスを取り上げ、その有効利活用を建築分野の視点から検討する（提案者：浅野良晴／信州大、予算：35+65万円）
- ・建築・都市分野で情報通信技術による管理システムのインフラを構築するためのビジョンを分野横断で作成する（提案者：坂村健／東京大ほか3名、予算：48+49万円）
- ・長寿命建築構造の評価と提案（提案委員会：地球環境委員会、構造委員会、建築法制委員会、材料施工委員会、予算：100+100万円）

08年度技術部門設計競技課題

07年6月の学術推進委員会で、表題の公募についての紹介があった。締め切りは9月28日。農村計画委員会では06年度にアイデアコンペ「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画」を応募し、採択されている。会員の設計技能向上が目的であり、農村計画における設計課題は多様にありそうである。三橋委員長のもとでの取り組みを期待したい。

07年10月の学術推進委員会に応募案の紹介があり、意見交換を行ったうえで、投票が行われ、08年度の技術部門設計競技の課題として「公共建築の再構成と更新のための計画技術」が採択され、担当委員会は建築計画委員会となった。締め切りは08年6月20日。詳しくは建築雑誌、または学会ホームページ参照。

なお来年からは、幹事会が選考委員会となり、ヒヤリング等を経て決定することになった。

学術推進委員会の改組

長年に渡り懸案となっている学術推進委員会の改組については、昨年度、学術推進委員会の仕組みについての改革に関する意見が集約され、本年度、神田委員長のもとで、具体的な改組について詰めることになっている。07年6月の学術推進委員会で案の提示の予告があり、10月の学術推進委員会に具体案が示された。その1、活動の活性化と予算の配分、その2、社会貢献を主眼とする組織の見直し、その3、会議運営方法の見直し、である。審議の結果、08年度の予算の5～10%程度を若手会員と対象とする特別研究会の設置に配分することが承認され、他の案については継続審議となった。

07年12月の学術推進委員会で継続案件について、神田委員長から下記の提案がなされ、意見交換のうえ、承認された。

2、社会貢献を主眼とする組織の見直しのうち、各調査委員会のもとで作成されてきた基準、指針、標準仕様などは、新年度に個別に申請し、幹事会で検討のうえ、別途予算を配分する

3、会議運営方法の見直しでは、幹事会を年8回程度－拡大幹事会を年2-3回－全体会を年4回とする。拡大幹事は幹事会メンバーに、構造・計画・環境・総合などに調査研究委員会をブロック化し、互選で選出された各1名が加わり構成する。

07年度九州大会の概要

・部門別出欠

農村計画 梗概題数 103 出席者 95 欠席者 8 欠席率 7.8 %
合計 6229 5998 231 3.7 %

全体に対し、農村計画の欠席率が高い

・部門別参加者（am10:00、pm14:30の集計）

農村計画 発表題数 103 午前午後別総参加者 101 午前平均参加者 25 午後平均 27
全体 6229 12900 37 40

農村計画は、29am19名、29pm39名、30am8名、pm協議会、31am14名、31pm21名である。

時間帯によっては立ち席が出るほどだったが、集計上の参加はかんばしくない

プログラム編成の工夫と同時に、参加への呼びかけも必要。

・研究集会参加者数・資料販売部数

農村計画 PD 参加者数 30 協議会 参加者数 51
資料 搬入 170 販売 96 残部 73

資料は残部数が多く、赤字になった。

08年の中国大会／広島大学 08年9月18日－20日

07年10月の学術推進委員会で、OS、PS、研究発表部門細・細々分類の検討の再依頼があった。締め切りは11月30日。農村計画委員会では、8月の本委員会で、PSおよび細・細々分類は昨年度の同じ内容で実施する、OSも実施するが、テーマは農山漁村景観保全とし、詳細は農山漁村保全小委・神吉主査にお願いすることになった。

なお、大会の活性化をよりいっそうすすめるため、OSのセッション担当者に講評をお願いし、建築雑誌で公開する案が神田委員長から示され、承認された。

また、中国大会実行委員会から、発表はPCプロジェクターに限りたいとの要望が出され、承認された。

電子版梗概集について、次年度からDVD1枚にすべてを収録し、全発表者に配布する案が説明され、承認された。これまでのCD-ROMは取りやめになる。

07年12月の本委員会で、OSの追認、PD、協議会企画案についての意見交換を行った。以下に、農村計画部門の企画を整理する。

PS：「むらづくり・まちづくり」「景観・環境資産」「海外事例研究」に関する成果でヴィジュアルに表現できるもの

OS：農山漁村景観の保全・継承の新たな展開

景観法の制定、文化財保護法の改正(重要文化的景観の導入)が行われ、農山漁村の自然・生業空間・集落等を一体として景観の保存・形成にかかわることのできる機会が広がった。一方で、農山漁村地域での過疎化・高齢化は一般にさらに進展しており、「限界集落」など問題が議論されるようになってきている。都市域では将来の人口減少・停滞を前提とした新たな将来像を考える機会が増え、都市域での農林漁業の意味が見直される動きもみえる。こうした状況のなかで、農山漁村景観はいかなる地域づくりの展開のなかで受けつがれていくことになるのか、可能性・課題・現状認識についての議論を深めることとしたい。特

に下記テーマについての投稿を求めたい。

- (1) 農山漁村景観の新たな捉え方／文化的景観／生態系／民家
- (2) 農山漁村景観の保全・継承の具体策／新旧制度・施策の活用（景観法、文化財保護法（文化的景観）、世界遺産、伝建地区など）
- (3) 農山漁村景観保全の人材・活動・担い手／広域での取り組み連携

PD案：「ただならぬ普通」の再発見：農山漁村景観を文化的景観として継承する

景観法、文化財保護法への文化的景観の導入等、景観保全制度が変化しつつある。生業と生活の中で育まれた農山漁村景観の継承活動の蓄積と、新たな制度はどのように適合し得るか、事例に即した実践的な議論を行う。

司会：神吉紀世子（京都大学）、副司会：植田暁（景観ネットワーク）、記録：川口友子（神戸大学）

1.主旨説明

2.主題解説

- (1) 中国地方の農山漁村／生業・生活が育む景観
- (2) 文化的景観として集落空間を読みなおす／保全施策づくりから
- (3) 景観保全のための「実働」担い手／ボランティア・Iターン・交流
- (4) 景観法の導入／法制度と「実働」をつなぐ工夫

3.討論

協議会案：次世代の地域・空間計画に生きる農山漁村の持続・再生のあり方

高齢化・過疎化に伴いわが国の農山漁村は深刻な状況にある。厳しい中国地方での人々の活力ある取り組みを参照し、次世代の地域・空間計画に生きる集落の持続・再生のあり方を協議し、今後の方向性を探る。

司会：熊野稔（徳山高専）、副司会：篠部裕（呉高専）、記録：前田真子（広島工業大学）

1.主旨説明

2.主題解説

- (1) 中国地方における中山間地域の取り組み
- (2) NPO活動からみた農山村の活性化
- (3) 自治組織の実践と住民の担うべき姿
- (4) 離島における取り組み

3.討論

建築デザイン発表会

07年6月の学術推進委員会に、昨年度から検討を進めてきた大会時に建築作品発表会を開く案について、次年度実施に向けて、三井所準備委員会委員長から概要が提示され、意見が交換された。

その検討を踏まえ、07年10月の学術推進委員会に、建築作品発表会応募要領が提示され、意見が交換された。

07年12月の学術推進委員会では最終案について意見交換され、建築デザイン発表会応募要領が承認された。08年度より、学術講演会または建築デザイン発表会のいずれかに

応募できることになる。応募期間は若干ずれるので、要注意。詳しくは、建築雑誌、または学会ホームページ参照。

08年度委員会活動計画案・予算原案の提出依頼

07年10月の学術推進委員会で、表題の提出について再依頼があった。締め切りは11月15日。農村計画委員会は06年度に改組をしており、06-07年度の各小委員会の活動を08-09年度も引き継ぐことになるが、いったん、06-07年度の活動を集約したうえで、小委員会を廃止し、改めて08-09年度の設置申請をすることになる。活動が活発に継続している小委員会は書類作成が煩わしいかも知れないが、活動計画の見直しや委員公募の機会にもなる。農村計画委員会傘下の小委員会は、一部に書類不備があるが、おおむね廃止、設置の書類が提出された。

国際交流振興基金の援助申請

07年12月の学術推進委員会で、表題の案内があった。申請期限は08年3月末日、9月末日の2回。海外へ紹介する出版物の翻訳・刊行など、海外技術者等の招聘、国際会議への派遣、国際活動など、国際交流振興に関する幅広い活動が対象である。本委員会でも主として日韓研究会等で援助を受けている。次年度の援助申請についても早めに企画を立てることを希望する。

08年度若手奨励特別研究委員会設置提案の募集

07年12月の学術推進委員会で、表題の募集が案内された。ただちに、農村ネットでも情報を流してある。該当する希望者はふるって応募を。締め切りは4月1日で、当日時点だ40才以下の本会会員による、萌芽的な研究で、分野横断的、境界領域、新分野・新領域の研究が対象である。小委員会の研究活動の展開にふさわしいと思える。

08年度調査研究委員会予算配分

07年12月の学術推進委員会に、例年にならった予算配分が提示され、承認された。

農村計画委員会は、1,280,000円で、昨年度の1,291,000円より11,000円の減額である。

予算配分は、過去5年間の大会発表題数（全体の1.53%）、過去5年間の新刊出版物数（0.86%）、過去5年間のシンポ等回数・参加者数（2.61%）が基礎ベースになる。活発な活動を期待したい。

推薦依頼・委員推薦

- ・卒論等顕彰委員は07年8月本委員会で、糸長先生を推薦
- ・文化賞候補：締め切り07年12月28日、推薦なし
- ・大賞業績候補：締め切り08年1月21日、推薦なし
- ・学会賞選考委員（論文）：締め切り08年3月11日、齋木先生を推薦
- ・奨励賞選考委員：締め切り08年3月11日、山崎先生、齋藤先生を推薦
- ・住宅系研究報告会：次年度委員を08年2月末日までに、検討中

研究会：農村計画研究の新しい動きⅣ

08年3月7日 15:30～18:00

司会：栗原伸治、記録：藤沢直樹、総評：斎尾直子

山本健司氏「沿海集落における集合性と空間の序列性に関する研究」

北澤大祐氏「ルーラル・ツーリズムの観点からみた保険・医療・福祉の連携に関する研究」

小委員会活動成果報告（2月15日ㄨ）＋本委員会での活動成果報告（3月5日）

小委員会の活動成果をまとめ、08年2月15日ㄨで学会に提出する。すでに各小委員会主査宛に提出依頼が届いているはず。ただし、活動は3月いっぱい継続するので、3月末日までに差し替えが可能である。この活動成果報告は学会ホームページに掲載される。

本委員会では、小委員会の活動報告会を、3月5日の本委員会時に行うので、上記活動成果報告（文書）に加え、パワーポイントを作成のうえ、3月5日に報告をお願いしたい。

各小委員会の活動成果を集約し、3月19日の調査研究委員会活動報告会で農村計画の活動を報告するので、活動がヴィジュアルに分かるスライドの提供をお願いしたい。

.....

スケジュール

2月	2/12 学術推進委員会
3月	3/5 本委員会＋小委員会活動報告会 3/7 農村計画研究の新しい動きⅣ（学会会議室） 3/19 調査研究委員会活動報告会（農村計画 10:15-10:30）
4月	4/ 学術推進委員会 4/14 学術講演会紙面投稿ㄨ 4/17 建築作品発表電子投稿ㄨ 4/ 研究集会建築雑誌掲載原稿ㄨ 4/20 学術講演会電子投稿ㄨ
5月	5/ 建築作品発表会プログラム編成会議 5/ 学術推進委員会 5/ 学術講演会プログラム編成会議
6月	? 春季学術研究会
9月	9/18-20 中国大会／広島大学